

表彰

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| ○第45回ゆうちよアイデア貯金箱コンクール | 参加賞 小1 五嶋章人 |
| ○第32回金沢市読書感想画コンクール | 優秀賞 小1 五嶋章人 |
| ○県の中学生学校給食献立コンクール | 努力賞 中2 横山莉世 |
| ○第66回読書感想文コンクール | 優良賞 中2 横山莉世 |
| ○第44回全国盲学生点字競技大会 | 個人賞 中学部第2位 中2 横山莉世 |
| ○令和2年度石川県書きぞめ展覧会 | 石川書研会長賞 高2 S・Y |
| | 秀作 小3 福田春馬 |
| | 佳作 中1 松本星良 高2 竹中陽香 |
| | 入賞 小1 五嶋章人 小6 酒井翔太 |
| | 中3 奥優樹 中3 奥瑞樹 |
| ○令和2年度専門高等学校等御下賜金記念優良卒業生表彰 | 受賞 専保3 大口篤史 |
| ○全日本鍼灸学会会長表彰 | 受賞 専理3 小倉美幸 |

県特P連第1回研修会

今年度の第1回研修会は石川県立明和特別支援学校にて開催されました。今回はコロナの影響で、例年より遅れての開催となりました。研修内容は次の通りです。

①令和2年度優良PTA石川県教育委員会表彰 受賞 小松特別支援学校

②演題1「これからの特別支援教育について」

講師：石川県教育委員会事務局学校指導課担当課長 杉江 哲治氏

研修会ではお馴染みの杉江氏が新学習指導要領のお話を、ユーモアたっぷりに聞かせて頂きました。

③演題2「インクルーシブスポーツへの展開」

講師：日本知的障がい者陸上競技連盟 会長 井上 明浩氏

井上氏は県内の障がい者スポーツはもとより、パラリンピックにも関わるすごい方でした。元々明和特別支援学校の教員をされていたそうです。みんな違ってみんないい共生社会を、スポーツを通じて行う事の大切さや、パラスポーツの魅力をたっぷりお話して下さいました。 (報告 奥 幸代)

文化祭ビンゴ大会

コロナ禍の今年度の文化祭は、飲食を伴う伝統的な“ママの店”を取りやめ、体育館で距離を確保しながら生徒・職員先生方全員集合で、ビンゴ大会を行いました。墨字と点字のビンゴカードの準備や会場正面に大型スクリーンの設置、無料アプリ“BINGO”をダウンロードして当たり番号が表示される形式を考案して下さいました。

PTAは司会と景品の準備をしました。司会はハロウィンコスチュームを身にまといました。ビンゴゲームの持ち時間と密にならないことに熟慮して、景品選びのカウンターでは密を避けるために品を選ぶ時間を短縮し、不透明の袋に入れて準備しました。現場での選ぶ楽しみの機会はなくなりましたが、その楽しみはあとで開封するときにとっておいてもらうことにしました。

PTAだけでなく、今年度の文化祭は代々受け継いで来た石盲スタイルを実現できませんでしたが、舞台や模擬店で異なる様式を取り入れた新世代の石盲の児童生徒を歴代の先輩方に自慢したくなりました。先生方のお陰です、心からお礼を申し上げます。 (報告 柴田 久子)

育友会だより 第72号

石川県立盲学校育友会
令和3年3月5日(金)発行
〒920-0942
金沢市小立野5丁目3番1号
TEL 262-9181
FAX 222-0214

おおぞら

「身体とところを整える」

育友会会長 島田屋 美智留



早いもので今年度も残りわずかとなりました。初めての会長で不安もありましたが、子どものおかげで貴重な体験をさせて頂きました。コロナ禍で先の見えない不安や人との関わりさえ我慢の多い1年でした。

臨時休校中、少人数ならではのオンライン学習の早期対応や、3密を避けて中止や延期になる中、可能な限りの行事が開催され、寂しさ半面新たな内容で新鮮さもありました。そのような皆様のお力添えやサポートして下さったおかげで無事に終えることが出来ました。

文化祭のビンゴ大会では係が子どもの仮装グッズを身に付け盛り上がりました。なかなか集まる事が出来ない保護者同士が景品の準備から司会進行まで行い、親睦が深まりました。

今年は家で過ごす日が多く、その分見たくないことが目についてカーッとしたり、のんびりしすぎて動きが鈍くなり、「こんな日もあっていいか」と甘やかしたり。いろいろなストレスを抱えることが多い中で「身体とところを整える」ことが大切だと改めて思いました。

身体の健康を維持するためには、ところを整える必要があります。ところが不安定な状態だと日々の行いすら続けることが難しくなります。ところを整え維持するためにはある程度の体力が必要となります。気持ちや苦悩を口にして誰かに聞いてもらおうと楽になり、自身の考え方やコミュニケーションの取り方と向き合うことも出来るそうです。また「まあいいか」と思うことも大切です。

最後になりましたが、今年度の育友会活動も無事に終えることが出来ました。これも保護者の皆様、先生方のご協力のおかげと感謝しております。ありがとうございました。そして、本校ならびに育友会の益々の発展を目指して保護者の皆様のご協力をお願い致します。

「誠心誠意」

石川県立盲学校長 江川 周一



卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございます。

今年度は、コロナ禍の中で4月、5月が臨時休校となり、学校再開後も行事の中止・延期、活動の制限が続き、児童生徒は我慢の日々でした。特に理療科の生徒にとって大事な外部臨床実習が十分できませんでした。そういった状況下でしたが、この3月に8名の児童生徒が、無事新たな門出を迎え、本当にうれしく思います。

この盲学校で共に学び、励まし合い、逆境を乗り越えた学校生活は、これからの人生において貴重な経験になります。卒業後は、それぞれ新しい職場や環境で、新たな人たちとの出会い、新たな目標へのチャレンジがあると思います。先生は、誠心誠意という言葉のとおり、「これから出会う困難も誠実に向き合えば必ず良い方向に行くはず。いつも謙虚に、周りの人には感謝の気持ちを忘れずに過ごして欲しい」と考えています。

卒業・修了される皆さんの今後益々のご活躍を期待しています。

先生は、これからも皆さんのことを応援しています。

卒業生へのメッセージ

「優樹へ。瑞樹へ。」

中学部 奥 幸代

優樹、瑞樹、中学部卒業おめでとう。二人にとってどんな3年間でしたか。

母はあっという間に感じる3年間でした。でも小学部卒業の時のあどけない顔の写真をみると月日はしっかりと流れているなど感じ、中学の3年間は大きいなど改めて思いました。

声変わり、顔つき、体つき、いろんなことが子供から大人になってきているし、足や手の大きさがいつの間にか母より大きくなっているし、瓶のふたを開けてくれるし、くっついてくれないし(笑)。何よりも会話が対等に出来るようになったことに、すごく成長を感じます。

学校もほとんど休まず登校して頑張りました。先生や友達と楽しくしている姿を見るのが好きで、こちまで楽しくなってしまいます。勉強、部活、運動会、文化祭等いろんなところで活躍している二人に感心します。先生達にも感謝しています。

これからもいろんなことにチャレンジして、たくさんの思い出を作ってください。コロナや大雪などいろんな困難がありますが、人生はそんなことの繰り返しのような気がします。それを乗り越える力が大事です。産まれたときの困難を乗り越えてきた二人、自信を持って頑張ってください。そして自立に向かって前進です。これからの3年間も楽しみにしています。

優樹へ、時に母の味方になってくれてありがとう。瑞樹へ、いつも肩もみやお手伝いありがとう。口うるさい母でごめんなさい。これからもよろしくお祈りします。

「翔太、卒業おめでとう！」

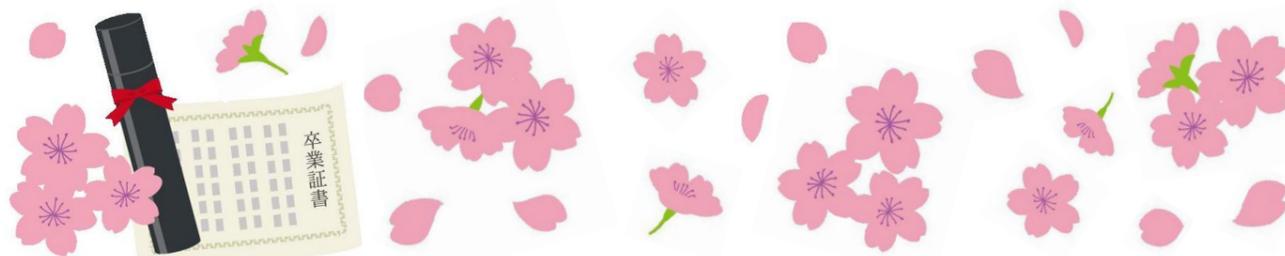
小学部 酒井 亜紀子

盲学校へ通うようになったのが、つい昨日の事のように。地域の小学校から転校したのは二年生の時。基礎の勉強こそ本人の特性に合わせてじっくり学び、自信を持ってもらいたいと考え、悩んで決断しました。

二年生では、生活面や学習面での基礎の基礎を細かく厳しく、そして優しくみっちり教えてもらい、三年生では、世の中のニュースや雑学を面白おかしく教えてもらい、四年生では、拡大読書器の使い方をマスターしました。五年生では修学旅行で能登へ行き、塩田で体験をしました。事前に、運動場でトンボを使ってこまごらの練習をした写真を見た時は笑ってしまいました。こんな事をする学校は、もしかしたら他にないのでは？

そして六年生。コロナの為にいきなり休校でしたが、本人はむしろラッキーと思っていたでしょう。盲学校の友達と電話をしたり、ゲームや手伝いをしたりして過ごしました。いつも明るいよね、それが翔太の良いところです。学習は、先生に教材を作ってもらったりアドバイスをもらったりして進めましたが、大変でした！先生方の苦勞がほんの少しわかりました。

気がつけば、話す言葉も難しくなり(ユーチューブのおかげ)、見た目も中身も成長しました。これからも新しい出会いを楽しみ、自分のやりたい事を見つけ精一杯頑張ってください。そして、自分と家族や周りの人を大切に、いつも感謝の気持ちを持っていて下さい！



育友会奉仕活動及びほっとネット大作戦

令和2年10月2日(金)の晴れた日の午前中、児童生徒及び保護者と先生方との交流を目的に奉仕活動が行われました。

事前準備のされたプランターに、花の苗と球根(後半グループ)を低学年の児童から植えていきました。密にならないように小グループに分かれ、前半は小学部と中1の児童生徒で、後半は中2・中3の生徒と普通科2年の生徒で行いました。

子供たちは先生方や保護者の説明を聞き、自分の好きな色や好みの花を選び、とても楽しそうに苗を植えていました。どんな花が咲くのが分かるように、花のプレートも差し込みました。ただし、後半グループの生徒たちが植えた球根だけは、花が咲くまでのお楽しみです。何色の花が咲くのか今はまだシークレットです。

作業中も感染予防のためマスクを装着していたので、とても暑く感じられましたが、みんなで協力をしながら最後まで作業を行ったことで達成感を得ることができました。

後半の午後は昼食をはさみ「ほっとネット大作戦」でした。体育館にて、「金沢少年鑑別所 法務教官 岡田昌弘先生」をお迎えしての講演で、「適切なインターネットとSNSの使い方について」と題してのご講演でした。この日は娘と向き合っインターネット等の話をする機会となりました。デバイスの管理や使用しているアプリや使用時間などです。一つだけ知らなかった事がありました。彼女は寝る前にタブレットの電源を切っているとのことで、私が教えられてしまいました。帰宅途中での車中でも、SNSで犯罪に巻き込まれる可能性のある恐怖や、何気なく放った悪意のないつもり言葉でも相手が傷つくことがあることなどを話し合うことができ、とても充実した1日となりました。

(報告 竹中 由香里)

中部盲学校PTA 連合会総会

今年度の総会は、9月4日に主幹校静岡視覚特別支援学校でリモートにて、中部地区6県9校から校長先生や会長など21名の参加で開催されました。

各校の PTA 活動について報告があり、その後協議を行いました。現状は感染拡大防止のため臨時休校、3密を避けての活動のため例年通りの活動が出来ないこと、どの学校も会員数の減少に伴い、多くの活動を計画することが難しいことや一部の保護者に頼り過ぎること、居住地が広域のため会員同士の交流がとりにくいとのことでした。取り組みとして、内容を工夫し可能な活動から行えるよう、また会員が意見を言いやすく柔軟に反映出来るよう、会員同士の連絡を密にし、学校との連携を深めて、計画の段階から多くの会員が参加・協力できるように楽しく活動していました。

(報告 島田屋 美智留)

育友会研修会

今年度初の取り組みとして、保護者が学び合う場を作ろうと育友会主催で研修会を行いました。講師は、保護者アンケートを取り本校卒業生の高桑百花さんとお母様の好美さんをお招きすることにしました。理療科ではない進路を選んだ百花さんの思いや、視覚障害をもつ先輩保護者の子育てについてお話を伺い、我が子の進路や子育てについて振り返る時間が持つことができました。明日からまた楽しく頑張っていこうという気持ちになることができた素敵な講演会でした。(報告 松尾 貴代)